

―連携取組で育てたい人材像とは。

この取組で目指すのは、問題発見・解決能力とリサーチマインドに裏付けられた歯科臨床技能を持ち、国民の歯科医療向上に貢献する歯科医療人ならびに将来の歯学研究を担う研究者を育成します。また、グローバル化・超高齢化が進展する現代社会の中で活躍できる人材の育成です。

―そのような人材を必要とする背景には、どのような課題があるのでしょうか。

我が国では、少子高齢化の急速な進展、国民の健康意識の高まる中、歯科に対する社会ニーズは大きく変化し、歯科医師に求められる資質や技能は多様化してきており、歯学教育の高度化が求められています。

―なぜこの3大学で連携することになったのですか。

3大学は、これまで大学間連携研究を推進すると共に、全国歯科大学長・歯学部長会議常置校としてさまざまな教育課題に共同して取り組んできました。口腔保健福祉教育に強みを持つ新潟大学、研究者育成教育に強みを持つ東北大学、国際化教育に強みを持つ広島大学の教育資源を提供・共有化し、歯学教育の高度化を目指します。

―取組は5年間実施します。どのような計画を立てていますか。

平成24年度は事業実施の準備期間として、キックオフシンポジウムの開催、先端歯学教育・評価方法の調査、広報活動を行います。平成25年度から、共通教材の開発、パイロット共同講義・実習を開始し、学生アンケートによる改善を進め、平成26年度から共同教育を本格的に開始します。

―この事業に採択されたことで、新たにどのようなことができるようになりますか。

この取組では、新たに臨床実習前に模型を用いて、統合的かつ現在の臨床実習では不可能な一口腔単位の技能教育を行います。また、医療保健・福祉に関する講義・演習、リサーチマインド育成のためのサマースクールを実施します。教育の内容は、連携機関の日本歯科医学教育学会から助言を得て、臨床技能の向上、問題発見・解決能力の向上に重点を置きます。3大学あわせて、毎年150人程度の学生が受講します

―取組の中には、各大学等でこれまで行っていた活動のレベルアップを図るものもあると思いますか、それはどのようなものですか。

臨床実習開始前の臨床能力を向上させることにより、卒前臨床実習の充実を図ります。連携機関と共に、時代に適応した臨床実習教育プログラムを構築します。また、共同教育教材の開発により、問題発見・解決型学習の充実を図ります。毎年150人程度の学生が一口腔単位の歯科診療について指導を受けることができます。学生は課題解決能力に裏付けられた臨床能力を伸ばします。

―連携の成果はどのような形で社会に示すことができるのでしょうか。具体的な成果指標のイメージはありますか。

学生はプログラムを受講すると臨床研修に円滑に移行できる臨床能力、問題発見・解決能力、リサーチマインドを身につけることができます。能力の向上は、他大学教員による相互評価、大学院充足率をもって確認します。このような学生を平成28年度までに500人を目標に社会に送り出します。高齢社会における歯科医療・福祉の現場で広く活躍するよう全力で取組を進めてまいります。

ステークホルダーからのメッセージ

日本歯科医学教育学会・理事長

俣木 志朗

歯学教育機関には多様かつ高度な保健・医療に応える人材育成が求められており、本取組には、生涯学習能力に裏付けられた臨床能力の担保について要請をしました。3大学の力を結集し、現代の歯科医療・保健の現場で活躍できる人材の育成は、国民の口腔保健の維持・向上に極めて重要です。そのために、連携取組の教材開発、プログラム開発に参画し、3大学と協働して歯学教育の高度化・充実化を図ることは本学会の使命の一つと考えます。この取組を通じて、高齢化・国際化が進む現代で活躍できる人材の育成が行われることを期待しています。

